

## (7) その他の事項

### 1) 河川、湖沼等の利用状況

対象事業実施区域を含む周辺市の水道事業者の年間取水量は、表 4-2-2-23 に示すとおりである。

犬山市では 7,905 千 m<sup>3</sup>、小牧市では 14,709 千 m<sup>3</sup>、春日井市では 32,324 千 m<sup>3</sup>、名古屋市では 306,268 千 m<sup>3</sup> の表流水<sup>(27)</sup>を利用している。

**表 4-2-2-23 表流水の年間取水量（平成 23 年度）**

（単位：千 m<sup>3</sup>）

事業主体	表流水		合計
		県水	
犬山市	1,869	6,036	7,905
小牧市	—	14,709	14,709
春日井市	—	32,324	32,324
名古屋市	306,268	—	306,268

注1. 県水とは、愛知県から市町村へ水道用水を供給する量。

資料：「平成23年度 愛知県の水道（水道年報）」

（平成25年6月現在、愛知県ホームページ）

<sup>(27)</sup> 河川、湖沼の水のようにその存在が完全に地表面にあるものをいう。

## 2) 下水道の整備状況

愛知県及び対象事業実施区域を含む周辺市の下水道普及状況は、表 4-2-2-24 に示すとおりである。

愛知県全体の下水道の人口普及率は 72.9%に対して、名古屋市は 99.0%であり県全体の普及率よりも高くなっているが、犬山市は 58.4%、小牧市は 69.3%、春日井市は 66.0%と県全体の普及率よりも低くなっている。

表 4-2-2-24 下水道の普及状況

地域	行政人口（千人）	市街化区域面積 (ha)	処理区域		人口普及率 (%)
			面積 (ha)	人口（千人）	
犬山市	73.9	1,057	979.0	43.2	58.4
小牧市	145.9	2,849	1,890.0	101.0	69.3
春日井市	302.7	4,709	3,077.0	199.7	66.0
名古屋市	2,182.2	30,258	27,885.0	2,160.5	99.0
愛知県	7,263.2	112,254	83,683.3	5,297.2	72.9

資料：「平成23年度愛知の下水道（資料編）」（平成25年6月現在、愛知県ホームページ）  
「土地に関する統計年報（平成24年版）」（平成25年6月現在、愛知県ホームページ）

### 3) 廃棄物処理の状況

#### ア. 一般廃棄物処理の状況

対象事業実施区域を含む周辺市の一般廃棄物の搬入状況は、表 4-2-2-25 に示すとおりである。可燃ごみの割合は4市とも70%を超えている。

一般廃棄物の処理状況は、表 4-2-2-26 に示すとおりである。直接焼却量の割合は4市とも70%を超えている。

し尿及び浄化槽汚泥処理の状況は、表 4-2-2-27 に示すとおりである。犬山市、小牧市及び春日井市では、し尿及び浄化槽汚泥ともに、し尿処理施設での処理となっている。

名古屋市では、し尿及び浄化槽汚泥ともに全てが下水道処理施設での処理となっている。

**表 4-2-2-25 一般廃棄物の搬入状況（平成23年度）**

(単位：t/年)

地域	混合ごみ	可燃ごみ	不燃ごみ	資源ごみ	その他のごみ	粗大ごみ	総収集量
犬山市	0 0.0%	17,509 77.1%	1,212 5.3%	3,908 17.2%	35 0.2%	56 0.2%	22,720
小牧市	0 0.0%	34,332 72.1%	3,014 6.3%	9,073 19.1%	11 0.0%	1,165 2.4%	47,595
春日井市	0 0.0%	73,798 73.3%	14,072 14.0%	11,043 11.0%	135 0.1%	1,584 1.6%	100,632
名古屋市	0 0.0%	579,643 84.4%	31,395 4.6%	65,191 9.5%	2,427 0.4%	8,120 1.2%	686,776

資料：「平成23年度一般廃棄物処理実態調査結果」（平成25年6月現在、環境省ホームページ）

表 4-2-2-26 一般廃棄物の処理状況（平成 23 年度）

(単位:t/年)

地域	直接焼却量	焼却以外の 中間処理量	直接 最終処分量	直接 資源化量	総処分量
犬山市	18,217 77.8%	1,302 5.6%	0 0.0%	3,908 16.7%	23,427
小牧市	34,332 72.1%	7,766 16.3%	11 0.0%	5,488 11.5%	47,597
春日井市	73,798 73.3%	17,396 17.3%	670 0.7%	8,758 8.7%	100,622
名古屋市	580,320 84.5%	102,531 14.9%	3,477 0.5%	447 0.1%	686,775

注1. 直接焼却量：収集されたごみが直接焼却施設へ搬入される量  
 焼却以外の中間処理量：中間処理施設（粗大ごみ処理施設、ごみ堆肥化施設、ごみ飼料化施設、メタン化施設、ごみ燃料化施設、その他の資源化等を行う施設、その他の施設）に直接搬入される量  
 直接最終処分量：中間処理施設を経ずに、最終処分場に直接搬入される量  
 直接資源化量：中間処理施設を経ずに、再生業者等に直接搬入される量  
 資料：「平成23年度一般廃棄物処理実態調査結果」（平成25年6月現在、環境省ホームページ）

表 4-2-2-27 し尿及び浄化槽汚泥の処理状況（平成 23 年度）

(単位:kl/年)

地域	し尿				浄化槽汚泥			
	し尿 処理施設	下水道 処理施設	その他	合計	し尿 処理施設	下水道 処理施設	その他	合計
犬山市	2,314	0	0	2,314	15,552	0	0	15,552
小牧市	4,633	0	0	4,633	15,321	0	0	15,321
春日井市	8,384	0	0	8,384	39,583	0	0	39,583
名古屋市	0	16,774	0	16,774	0	27,927	0	27,927

資料：「平成23年度一般廃棄物処理実態調査結果」（平成25年6月現在、環境省ホームページ）

#### イ. 産業廃棄物処理の状況

愛知県における産業廃棄物の種類別の発生量は表 4-2-2-28 に示すとおりである。資料元の「平成 22 年度の一般廃棄物（ごみ）及び産業廃棄物の減量化状況」では、平成 20 年度と平成 22 年度の比較が示されている。平成 22 年度の産業廃棄物（特別管理産業廃棄物を含む。）の発生量は 18,742 千 t であり、平成 20 年度の発生量 22,330 千 t に比べて 16.1% 減少している。また、種類別に比較すると、紙くずが最も多く減少しており、次にその他、がれき類の順となっている。一方、増加が最も多いのは植物性残さであった。

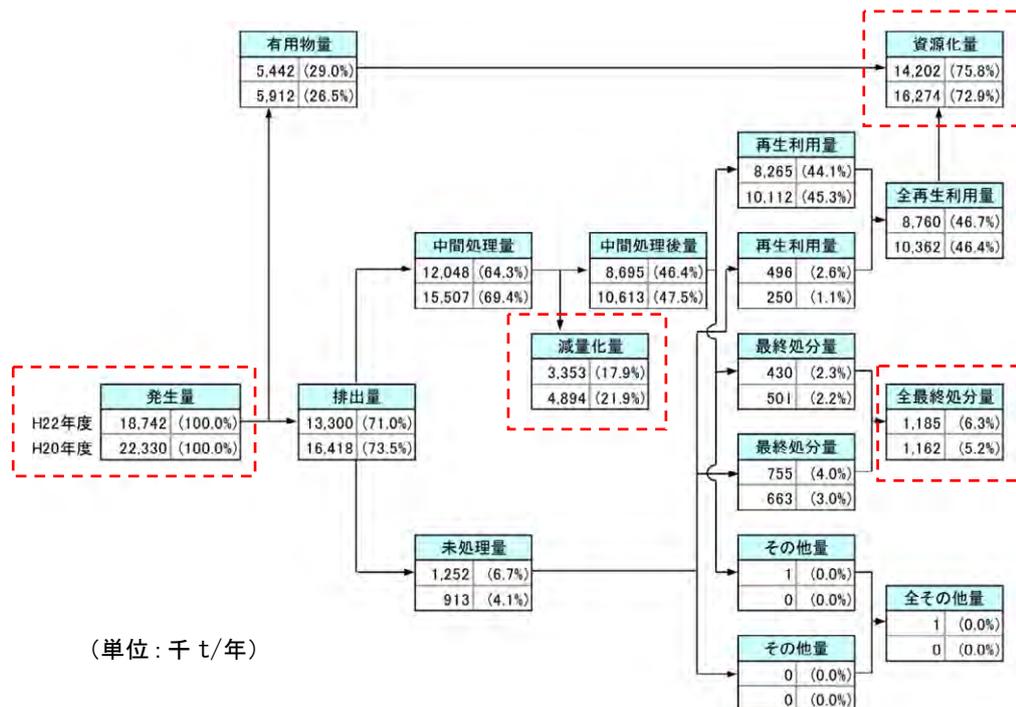
産業廃棄物の処理、処分及び資源化の状況は、図 4-2-2-10 に示すとおりである。平成 22 年度の産業廃棄物の発生量 18,742 千 t のうち、減量化量は 3,353 千 t で 17.9%、資源化量は 14,202 千 t で 75.8%、全最終処分量は 1,185 千 t で 6.3%となっている。

表 4-2-2-28 産業廃棄物の種類別の発生量（平成 22 年度）

（単位：千 t/年）

種類	発生量		増減率
	平成 20 年度	平成 22 年度	
燃え殻	261	253	-3.1%
汚泥	2,983	2,137	-28.4%
廃油	311	292	-6.1%
廃酸	56	50	-10.7%
廃アルカリ	185	132	-28.6%
廃プラスチック類	698	519	-25.6%
紙くず	183	95	-48.1%
木くず	272	264	-2.9%
動植物性残さ	121	161	33.1%
金属くず	2,424	2,505	3.3%
ガラス陶磁器くず	406	293	-27.8%
鉱さい	4,325	3,733	-13.7%
がれき類	5,098	3,474	-31.9%
動物のふん尿	2,443	2,501	2.4%
ばいじん	1,646	1,853	12.6%
その他	918	482	-47.5%
合計	22,330	18,742	-16.1%

資料：「あいちの環境（廃棄物の減量化状況）」（平成25年6月現在、愛知県ホームページ）



注1. 県内で発生した産業廃棄物の処理の流れであり、県外での処理を含む。

注2. 数値は四捨五入のため合計が一致しないことがある。

注3. ( ) は発生量に対する割合を示す。

注4. その他量は保管等の量である。

資料：「あいちの環境（廃棄物の減量化状況）」（平成25年6月現在、愛知県ホームページ）

図 4-2-2-10 産業廃棄物の処理、処分及び資源化の状況（平成 22 年度）

#### 4) 温室効果ガスの排出量

愛知県の温室効果ガスの排出量については表 4-2-2-29 に示すとおりであり、2009 年度の実績は 75,008 千 t-CO<sub>2</sub> となっている。

**表 4-2-2-29 県内の温室効果ガスの排出量**

(単位：千 t-CO<sub>2</sub>)

実績 (年度)
75,008 (2009)

資料：「平成24年版 環境白書」(平成25年6月現在、愛知県ホームページ)